

(4) 他機関との連携教育

東京農業大学連携大学院協定

東京農業大学

連携大学院方式は、平成7年11月成立の「科学技術基本法」によるもので、学際的学問分野の発展に対応するため、大学が国公立および民間等の研究所と連携して研究領域の拡大と多様化を図るといいます。つまり、近年の科学・技術の著しい発展に伴い、従来の概念を超えた新しい学問領域が開拓されつつある現在の局面に対応し、高度に専門化された領域や学際的な研究課題に取り組むため、大学院組織の壁を乗り越え発展させようとする試みです。具体的には、連携先の研究者を客員教員(客員教授・客員准教授)に迎え、学生は相手側の研究所にて専門分野の先端的な環境のもと研究指導を受けたり、本学にて客員教員による特別講義等を受講することができるというシステムで、協定先の研究機関と本学が研究者の育成のために連携する仕組みです。

このような外部との交流が大学院生にはもちろん学部学生にも大きな刺激となり、研究活動が一層活性化しています。また連携先では、大学院教育に参加することで若い活力を研究活動に注入し、独創的な実学と先端的技術の開拓を図っています。

[協定先]

東京農業大学大学院	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構(平成15年度～) 独立行政法人 国際農林水産業研究センター(平成16年度～) 公益財団法人 山階鳥類研究所(平成17年度～) 独立行政法人 国立健康・栄養研究所(平成17年度～) 独立行政法人 農業生物資源研究所(平成19年度～) 独立行政法人 国立成育医療研究センター(平成19年度～) 生活科学研究所(東京農業大学短期大学部)
〃 農学研究科	独立行政法人 農業環境技術研究所(平成15年度～) 一般財団法人 進化生物学研究所(平成15年度～)
〃 生物産業学研究科	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター(平成16年度～)

東京農業大学農学部首都圏西部大学単位互換協定

[首都圏西部大学単位互換協定]

東京農業大学

首都圏西部地域の大学・短期大学が相互に単位互換協定を締結して、これらの大学に所属する学生が他の大学の授業科目を履修し、そこで修得した単位を所属する大学の単位として認定する単位互換を行っている。単位互換協定に参加する大学からは、それぞれ特色のある授業科目や、他の大学にはないユニークな授業科目が提供され、本学農学部においても多くの学生がこの制度を利用して、それぞれの大学の特色ある授業科目の履修や、いろいろな大学の雰囲気を感じている。

また、単位互換協定に参加している大学が連携して授業科目(総合講義)を開設し、各大学の講師がオムニバス形式で実施する共同授業も行っている。今年度の共同授業テーマは「ネットワーク社会と未来Ⅰ」「現代社会の感受性Ⅲ」「グローバル社会と日本Ⅰ」「21世紀の日本Ⅱ」の4つである。自分の好きな分野の知識を広げ、教養を深めたいという受講目的を考慮し、現代が直面している課題の中から学生の興味や関心に応じた内容となっている。なお、東京農業大学は、平成26年3月31日をもって脱会した。

東京農業大学生物産業学部は、網走支庁管内の大学(北見工業大学、東京農業大学、日本赤十字北海道看護大学、北海学園北見大学)間で、相互の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、「網走支庁管内大学間単位互換に関する協定書」を平成15年1月30日に最初の締結を行った。その後、参加大学(北見工業大学、東京農業大学、日本赤十字北海道看護大学)の変更等により、平成19年4月1日に再締結を実施した。

この単位互換制度は、各大学が相互に講義を開放し、学生にそれぞれの大学の特徴ある分野から幅広い知識を習得してもらうのが目的で、1年次生から4年次生までの全学生が対象で、検定料および授業料は無料としている。この協定により受け入れる学生は、「特別聴講学生」として1年間の履修期間が用意されている。

受講できる科目、認定単位の上限は各大学によって異なり、本学生物産業学部においては全ての学科(生物生産学科、アクアバイオ学科、食品香粧学科、地域産業経営学科)で30単位を上限として履修することが可能となっている。また、本学生物産業学部の学生が「特別聴講生」として網走支庁管内の大学で取得した授業科目の単位については、卒業単位としても認定することができる。

なお、平成25年度実績については、受け入れの特別聴講学生、派遣の特別聴講学生ともなかった。

網走支庁管内大学間単位互換に関する協定について

この協定に参加する網走支庁管内の大学(以下「大学」という。)は、相互の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、平成15年度4月1日最初に締結した。

また、参加大学の変更等により、平成19年4月1日再締結しました。この協定に関する詳細は下記のとおりとする。

(参加大学)

1 この協定には、北見工業大学、東京農業大学及び日本赤十字北海道看護大学が参加する。

(実施学部)

2 この協定による単位互換の実施学部は、別に定める実施要項による。

(受入学生の呼称)

3 この協定により受け入れる学生は、「特別聴講学生」と称する。ただし、大学によりこの呼称によりがたい場合は、当該大学の定める呼称とすることができる。

(履修期間)

4 特別聴講学生の履修期間は1年以内とし、当該年度を越えないものとする。

(受入学生数)

5 各大学が受け入れる特別聴講学生数は、授業に支障のない範囲で、受入大学が決定する。

(履修方法等)

6 特別聴講学生の履修方法及び試験の実施方法については、受入大学の定めるところによる。

(単位の授与)

7 特別聴講学生が履修した授業科目の成績評価及び単位の授与については、受入大学の定めるところによる。

(単位の認定)

8 特別聴講学生が履修した授業科目の単位認定については、派遣大学の定めるところによる。

(検定料、入学料及び授業料)

9 特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料は相互に徴収しない。

(履修科目、単位数及び受入手続き等)

10 特別聴講学生が履修できる授業科目、単位数及び受入手続き等については、別に定める実施要項による。

(実施要項)

11 この協定による単位互換を円滑に実施するため、実施要項を別に定める。

●東京農業大学生物産業学部との相互協力協定

協定先	協定締結日
網走市	平成19年4月1日
北海道女満別高等学校	平成20年3月27日
北海道標津町	平成20年7月3日
北海道東藻琴高等学校	平成20年9月18日
北海道網走桂陽高等学校	平成20年10月23日
北海道佐呂間高等学校	平成20年11月26日
北海道中標津町 中標津町教育委員会 北海道中標津農業高等学校	平成20年12月3日
北海道常呂高等学校	平成21年3月11日
北海道別海町 別海町教育委員会 北海道別海高等学校	平成21年12月12日
北海道清里高等学校	平成22年1月20日
北海道美幌高等学校	平成24年7月18日

●東京農業大学生物産業学部との包括連携協定

協定先	協定締結日
北海道福島町	平成22年7月30日
網走信用金庫	平成23年3月3日
学校法人別府大学大分香りの博物館	平成23年9月9日
磐田市香りの博物館	平成23年11月26日
日本野菜ソムリエ協会札幌支部	平成24年1月25日
サッポロビール株式会社北海道本社	平成24年7月5日
網走商工会議所	平成25年1月29日
国立大学法人北見工業大学 学校法人日本赤十字学園日本赤十字北海道看護大学 国土交通省北海道開発局網走開発建設部	平成25年3月26日

●平成25年度に新たに締結した協定

① 東京農業大学生物産業学部と株式会社アルビオンとの包括連携に関する協定

東京農業大学生物産業学部と株式会社アルビオンは包括連携により、日本国内のみならず広く海外までも含めて、新規有用性植物の探索・評価を行い、化粧品産業における応用・実用化研究を行う。あわせて広く産学において活躍する人材の育成に努めることを目的に包括連携における協定を平成25年4月1日に締結した。

② 東京農業大学生物産業学部と嘉南薬理科技大学薬理学院(台湾)との連携協定

東京農業大学生物産業学部と嘉南薬理科技大学薬理学院は双方の友情を深め教育・研究・その他の分野で協力し共同研究を行なう連携協定を平成25年6月27日に締結した。

③ 東京農業大学生物産業学部と高苑科技大学行程学院(台湾)との学术交流協定

東京農業大学生物産業学部と高苑科技大学行程学院は両大学の協力関係と学术交流の促進を図るため学术交流協定を平成25年9月23日に締結した。

④ 東京農業大学生物産業学部と株式会社ノエビアとの包括連携協定

東京農業大学生物産業学部と株式会社ノエビアは包括連携により、地域の活性化に貢献しうる活動を展開すると共に、多様な生物資源を活用した食品・化粧品産業における応用・実用化研究を行う。また、この連携を通して産学において活躍する人材の育成に努めることを目的に包括連携協定を平成25年11月22日に締結した。

⑤ 東京農業大学生物産業学部と北海道津別高等学校との相互協力協定

東京農業大学生物産業学部と北海道津別高等学校は互いの教育内容の充実と学生及び生徒の資質向上を図るために、教育・研究活動において相互に協力・連携し交流を深める事業に取り組むことを目的に連携教育における協定を平成25年11月27日に締結した。

せたがや e カレッジ

<http://setagaya-ecollege.com/>

東京農業大学

世田谷の豊かな知識財を、インターネットを通じ区民や全国に向けて発信し、文化創造型の新しい学習サービスの創造に取り組むことを目的に、平成 15 年 11 月、世田谷区教育委員会と東京農業大学・駒沢大学・国士舘大学・昭和女子大学の 4 大学の間でインターネットを利用した生涯教育の講座を協働で開設することに合意した。平成 15 及び 16 年度と 2 年間の検証を経て平成 17 年度より本格実施となった。

大学と自治体との連携による市民参加型 e ラーニングの評価は高く、各大学の特徴を活かした講座や市民からの提案講座への登録者数は平成 26 年 4 月末現在 5,607 人まで達し、わが国を代表する e ラーニングの規模まで発展してきた。登録者の約半数は世田谷区民であるが、それ以外の首都圏内の登録者や海外からの登録者もいることから、e ラーニングの広域性を十分に発揮し、社会貢献の一躍を担うべき生涯教育のより一層の拡大と充実が期待できる。

現在、運営母体として世田谷区教育委員会と 4 大学が共同で「せたがや e カレッジ運営委員会」を発足し、官学それぞれの特徴を生かした講座(コンテンツ)の制作や広報活動等への取り組みを進めている。

● **せたがや e カレッジおよび運営委員会組織**

せたがや e カレッジ 名誉学長 保坂 展人(世田谷区長)

せたがや e カレッジ運営委員会組織

運営委員長 猿山 義広(駒澤大学経営学部教授)

運営委員 岸山 睦(昭和女子大学グローバルビジネス学部教授)

運営委員 鈴木 誠(東京農業大学地域環境科学部教授・エクステンションセンター長)

運営委員 辰野 文理(国士舘大学法学部教授・生涯学習センター副センター長)

運営委員 林 勝久(世田谷区教育委員会事務局 生涯学習・地域・学校連携課長)

● **開講講座 (平成 26 年 4 月現在)**

講座名	講師
水利用から見たアフリカ乾燥地開発	生産環境工学科 教授 高橋 悟
「発酵食品には魅力がいっぱい科学がいっぱい」	醸造学科 教授 中西 載慶
「日本の食糧問題を考える」	生物応用化学科 教授 高野 克己
農大最先端研究「ご飯のおいしさに迫る」	生物応用化学科 教授 高野 克己
農大最先端研究「バイオ電池のひみつ」	醸造科学科 准教授 大西 章博
農楽入門「地図情報と GoogleMap の活用」	国際バイオビジネス学科 准教授 畑中 勝守
「レポート・論文作成の為に情報-データベースの紹介-」part 1	学術情報課程 准教授 惟村 直公
「レポート・論文作成の為に情報-データベースの紹介-」part 2	学術情報課程 准教授 惟村 直公
農楽入門「古い鋸を調べる」	教職課程 准教授 星野 欣也
農楽入門「きのこの不思議」	醸造学科 助教 中間 裕人
農楽入門「環境にやさしい野菜の栽培について」	生物生産技術学科 教授 五十嵐 大造
農大最先端研究「バイオミメクス-自然に学ぶ次世代型ものづくり-」	農学科 教授 長島 孝行
農大最先端研究「農学における新しいゲノム研究の幕開け」	バイオサイエンス学科 教授 吉川 博文
農楽入門「食べる」と「生きる」こと-栄養化学を「ロバストネス」から考える-	生物応用化学科 助教 小林 謙一
農楽入門「GoogleMap、GoogleEarth…電子地図の効果的利用-」	生産環境工学科 准教授 島田 沢彦
農大最先端研究「資源循環型社会創造への挑戦」	醸造科学科 教授 鈴木 昌治
農楽入門「農産物の電子商取引」	国際バイオビジネス学科 教授 鈴木 充夫
農大最先端研究「遺伝子のチカラ～頭を良くするには?～」	バイオサイエンス学科 教授 喜田 聡

農楽入門「DNA鑑別による食材の推定～食の安全・安心にむけて～」	生物応用化学科 准教授 内野 昌孝
農楽入門「お酒との付き合い方」	醸造学科 准教授 穂坂 賢
農楽入門 特別編「日本型食生活を支える醤油の力」	醸造学科 教授 舘 博
東京農業大学オホーツクキャンパスのファイントレールの紹介	生物生産学科 教授 横濱 道成
森は人をすくう	森林総合科学科 教授 宮林 茂幸
「プロバイオテックスのチカラ～乳酸菌の基礎知識と特定保健用食品～」	生物応用化学科 准教授 佐藤 英一
「食の大切さを感じ・・・～食育の目指すもの～」part 1	栄養学科 教授 古庄 律
「食の大切さを感じ・・・～食育の目指すもの～」part 2	栄養学科 教授 古庄 律

※ 講師欄の職階はコンテンツ作成時のものです。《東京農大主催・関連講座 26 講座、他 37 講座(他大学・一般主催)》

千葉県内私立大学（短期大学を含む）および放送大学との間の単位互換制度 東京情報大学

1 制度概要

本学では、放送大学とは平成8年度から、千葉県内私立大学(短期大学を含む)とは平成9年度から、双方で締結する単位互換に関する包括協定書に基づき、本学学生または他の各大学の学生が、当該大学で定める授業科目の履修を認め、修得した単位を所属大学で修得した単位として認定する「単位互換制度」を実施している。履修を希望する学生は、当該大学において「特別聴講学生」となり、各大学のサポートを受けながら単位修得することになる。

なお、当面の間、放送大学学生の本学受け入れは行わないことにしている。

2 他大学の学生受け入れ

平成 25 年度の学生受入はなかった。本学開講科目は以下のとおり。

本学の学科	開講科目	受入対象 学年	単位数	受入人数 の上限	受入数	
総合情報学部	総合情報学科	情報リテラシー I	1年次以上	前期2単位(2コマ連続授業)	5人	0
		情報ネットワーク概論	1年次以上	前期2単位	5人	0
		経営学概論	1年次以上	前期2単位	5人	0
		マーケティング論	1年次以上	後期2単位	5人	0
		総合情報学概論 I	1年次以上	前期2単位	5人	0
		経済の論理 I	1年次以上	前期2単位	5人	0
		経済の論理 II	1年次以上	後期2単位	5人	0
	情報システム学科	ソフトウェア工学a	3年次以上	前期2単位	5人	0
	環境情報学科	空間情報論	2年次以上	前期2単位	5人	0
		環境情報論	2年次以上	後期2単位	5人	0
		業務設計論	2年次以上	前期2単位	5人	0
		システム設計論	2年次以上	後期2単位	5人	0
		プロジェクトマネジメント	3年次以上	前期2単位	5人	0
		ERP システム論	3年次以上	後期2単位	5人	0
		データマイニング	3年次以上	後期2単位	5人	0
	情報ビジネス学科	流通情報論	2年次以上	後期2単位	5人	0
		Web システム基礎論	2年次以上	前期2単位	5人	0
		Web ビジネスシステム論	2年次以上	後期2単位	5人	0
		ベンチャービジネス論	3年次以上	前期2単位	5人	0
		ERP 論	3年次以上	前期2単位	5人	0
		経営数理	3年次以上	前期2単位	5人	0
人的資源論		3年次以上	後期2単位	5人	0	
リーガルリスクマネジメント論		3年次以上	後期2単位	5人	0	
情報文化学科	現代社会学	2年次以上	前期2単位	5人	0	

3 単位互換に関する協定締結大学

(平成 25 年度)

放送大学、敬愛大学、和洋女子大学、麗澤大学、千葉商科大学、千葉工業大学、中央学院大学、淑徳大学、帝京平成大学、神田外語大学、千葉経済大学、明海大学、秀明大学、国際武道大学、川村学園女子大学、江戸川大学、聖徳大学、城西国際大学、東洋学園大学、東京成徳大学、二松学舎大学、清和大学、愛国学園大学、日本橋学館大学、東京基督教大学、植草学園大学、千葉明德短期大学、千葉経済大学短期大学部、千葉敬愛短期大学、三育学院短期大学、昭和学院短期大学、清和大学短期大学部、聖徳大学短期大学部、帝京平成看護短期大学、東京経営短期大学、植草学園短期大学

高大連携

東京情報大学

●千葉県立千城台高等学校および千葉県立四街道北高等学校との高大連携教育

近隣の高等学校である千葉県立千城台高等学校及び千葉県立四街道北高校の生徒に対し、大学や学科の特色を高校生に伝え、あわせて高等学校と大学教育に資することを目的として平成14年度から継続して実施している(四街道北高等学校は平成15年度から)。平成20年度からは別途提携している千葉県立佐倉南高校も加え、平成25年度は「未来を拓く『情報』を学ぶ」をメインテーマに、3回の夏季集中授業を含めてコンピュータからメディア、ビジネスなど幅広いテーマによる実習を中心とする授業をおこなった。

<90分授業>

日時	担当教員	タイトル(演題)
平成 25 年 4 月 16 日(火)	小泉 宣夫	未来を拓く「情報」を学ぶ(導入授業)
平成 25 年 4 月 23 日(火)	西村 明	情報のデジタル化ー音のデジタル表現ー
平成 25 年 4 月 30 日(火)	中島 淳	体験! コンピュータグラフィックス
平成 25 年 5 月 7 日(火)	安岡 広志	体験! WEB アニメーション(Flash 演習)
平成 25 年 5 月 14 日(火)	森口 一郎	コンピュータウイルスとの戦い
平成 25 年 5 月 28 日(火)	堂下 浩	日本アニメの世界戦略～もてるアニメ・もてないアニメ～
平成 25 年 6 月 4 日(火)	武井 敦夫	衛星を使ってマーケティング～コンビニ出店計画～
平成 25 年 6 月 18 日(火)	内田 治	「誰に似てる?」「このお菓子おいしい?」～感覚をはかる方法～
平成 25 年 6 月 25 日(火)	ケビン・ショート	文化人類学への招待
平成 25 年 7 月 9 日(火)	平野 正則 北風 和久 森口 一郎 岸本 頼紀、他	コンピュータの内部をさぐる(PCの分解・組立て)

<夏季集中体験授業>

日時	担当教員	タイトル(演題)
平成 25 年 7 月 31 日(水)	河野 義広	ソーシャルメディア活用によるパーソナルブランディングのススメ 90分×4コマ
平成 25 年 8 月 1 日(木)	西貝 雅人	セルフポートレート・ワークショップ～未来の私に伝えるワタシの物語～ 90分×3コマ
平成 25 年 8 月 2 日(金)	朴 鍾杰 鈴木 英男 浅沼 市男	ロボットの動きをプログラミングする～自立型ロボットにチャレンジ～ 90分×3コマ

●千葉県立佐倉南高等学校との高大連携教育

平成16年度より東京情報大学と千葉県立佐倉南高校では、双方の教育及び研究活動の発展を図るとともに、情報学に関する優秀な人材を育成することを目的に協定に基づく連携教育を実施している。主な内容は以下の通り。

(1) 高大連携授業聴講

千城台高等学校・四街道北高等学校との高大連携教育プログラムに参加する。(前項を参照)

(2) 授業聴講

本学の授業〔「WEBデザイン演習(安岡)」前期・金曜4限・文化2年、「CG アニメーション演習(中島)」後期・金曜4限・文化2〕に希望生徒が特別聴講生徒として参加(見学)する。

(3) 高校生による課題研究の発表会

当該高校生(情報コース2年)による課題研究の発表内容に対して、本学の教員及び大学生がアドバイスをする。

(4) 出張講義

当該高校生(情報コース2年)を対象とした出張講義を行なう。

(5) 見学会

1年生全員を対象とした見学を行なう。

●千葉県立柏の葉高等学校との高大連携教育

東京情報大学と千葉県立柏の葉高等学校では、情報教育の分野において、相互に協力・連携し、双方の教育及び研究活動の発展を図るとともに、情報学に関する優秀な人材を育成することを目的として高大連携教育の協定書にもとづき連携教育を実施している。平成25年度は本学と当該高校との共催で教育研究フォーラムを開催した。連携教育の主な内容は以下のとおり。

(1) 高等学校の教科「情報」教材の開発

教科「情報」について、高校側が指導に苦慮する単元や内容の提示を基に、大学側から技術的なサポートをすることにより、最終的には高校授業の指導案、資料、教材を作成する。

(2) 出張講義

(3) 課外活動及び文化祭への支援

情報大教員が高校のコンピュータ同好会への継続的な指導を行い、その成果を生徒が高校の文化祭で発表する。

(4) 情報教育研究フォーラム

「情報教育研究フォーラム」(平成25年12月21日開催)を本学と当該高校との共催で実施した。

平成25年度テーマ「新たな情報教育をめざして」

(5) オープンキャンパス等への参加

情報理数科2年生がオープンキャンパスに参加。

(6) 教職課程履修者への支援

●千葉県立船橋豊富高等学校との高大連携教育

平成19年度より東京情報大学と千葉県立船橋豊富高等学校では、双方の教育及び研究活動の発展を図るとともに、情報学に関する優秀な人材を育成することを目的に協定に基づく連携教育を実施している。主な内容は以下の通り。

(1) 出張講義

(2) 見学会・体験授業について

(3) 教職履修者への支援

教職希望学生・関係教員による高校授業の見学や教職希望学生による高校授業の補助等を行なう

●千葉県立大網高等学校との高大連携教育

平成23年度より東京情報大学と千葉県立大網高等学校では、双方の教育及び研究活動の発展を図るとともに、情報学に関する優秀な人材を育成することを目的に協定に基づく連携教育を実施している。主な内容は以下の通り。

- (1) 双方の授業への学生、生徒及び教職員の聴講
- (2) 双方の教員の相互派遣
- (3) 共同による情報教育に関する調査・研究の実施
- (4) 教職を目指す学生に対する支援

●千葉県立成田西陵高等学校との高大連携教育

平成23年度より東京情報大学と千葉県立成田西陵高等学校では、双方の教育及び研究活動の発展を図るとともに、情報学に関する優秀な人材を育成することを目的に協定に基づく連携教育を実施している。主な内容は以下の通り。

- (1) 双方の授業への学生、生徒及び教職員の聴講
- (2) 双方の教員の相互派遣
- (3) 共同による情報教育に関する調査・研究の実施
- (4) 教職を目指す学生に対する支援

●千葉県高等学校農業部会との高大連携

平成23年度より東京情報大学と千葉県高等学校農業部会は、教育及び研究活動の交流と、千葉県における優れた人材育成を目的として連携教育協定を締結した。平成25年度の主な事業は以下のとおり。

〈千葉県学校農業クラブ連盟 平成25年度千葉県大会 農業情報処理競技会〉

- (1) 日程:平成25年7月21日(日)
- (2) 対象:千葉県農業部会に加盟する高校(14校)の在校生(60名)
- (3) 教科「農業情報処理」に関する知識と技術を競い合うことを目的として、2日間、本学において競技大会を実施するもの。

〈第64回日本学校農業クラブ全国大会農業情報処理競技会 平成25年度首都圏大会〉(全国大会)

- (1) 日程:平成25年9月13日(金)
- (2) 対象:日本学校農業クラブに加盟し、地区予選を通過した高校生(94名)
- (3) 教科「農業情報処理」に関する知識と技術を競い合うことを目的として、本学において競技大会を実施するもの。

東京農業大学と東京情報大学との間における「特別聴講学生」「国内留学生」について	東京農業大学 東京情報大学
---	------------------

平成18年度から「東京農業大学と東京情報大学との間における『特別聴講生』『国内留学生』に関する協定書」が取り交わされ、当面、東京農業大学生物産業学部産業経営学科と東京情報大学総合情報学部情報ビジネス学科間を対象として「国内留学生」を募集した。平成18年度以降の実績は、東京農業大学から東京情報大学の受講者数が平成19年度が女子2名、東京情報大学から東京農業大学の受講者数が平成18年度、平成20年度、平成21年度及び平成25年度が各男子1名である。

なお、この「国内留学生」には、相手校の授業料免除や在学するための住居費の一部が助成されるという支援があり、修得した単位は自大学の卒業要件単位数に加算される。